

令和7年度 第1回 佐伯市総合計画審議会議事録要旨

日 時 令和7年度9月17日（水）19時00分～21時00分

場 所 佐伯教育市民ホール「まな美」3階 市民多目的ホール

委 員： 柴田真佑 岩佐礼子 中島豊美 竹中裕子 江藤茂 芦荻誠仁 大石ゆかり
宮崎正豊 山口信仁 藤原容子 平野憲司 川野幹雄 青柳一恵 鰐石朝子
河野憂美 三浦章吾 今山正弘 下岡里美 山本裕美 渡邊正太郎

（全25人中20人）

職員等： 富高市長、宗岡教育長、総合計画本部会議委員（各部局長21人）

事務局： 末永政策企画課長、大江総括主幹、高木副主幹、五十川副主幹、馬場主任

傍聴者： 4人

1 開 会

2 市長あいさつ

富高市長があいさつを述べた。

3 総合計画審議会会長あいさつ

柴田会長があいさつを述べた。

4 議事（諮問事項）

（1）第2次佐伯市総合計画（後期基本計画）の令和6年度の取組に係る検証結果について

事務局から総合計画の進捗管理及び令和6年度の評価結果（概要）について説明し、質疑応答を行った。

（2）第3期佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和6年度の取組に係る検証結果について

事務局から総合戦略の進捗管理及び令和6年度の評価結果（概要）について説明し、質疑応答を行った。

5 その他

令和6年度第2次佐伯市総合計画（後期基本計画）の進捗状況等に関する市民アンケート調査報告書について事務局が説明を行った。

議事での意見

（1）第2次佐伯市総合計画（後期基本計画）の令和6年度の取組に係る検証結果について

次のとおり

総合計画全体について

委員	計画全体をつうじて、「持続可能な」という言葉がよく出てくる。少子・高齢化が進む中で、地域の統合なども検討していかないといけないが、住み慣れた地域で持続可能な生活が続けられるよう、行政として取り組んでいただきたい。
----	--

政策1 豊かな自然環境と安全・安心な生活環境の創生

委員	防災ラジオの配布率が上がらない。区長会として出来ることはやっているが、市としても普及率の向上に向けて取り組んでいただきたい。
須山防災局長	地域のイベントなどでラジオを設置してもらうよう広報をしている。委員が希望する配布方法については、一度持ち帰って検討する。
委員	消防団員数の減について、団員の構成を見ると、市役所職員が多く、災害時には市役所の業務対応に出ないといけないということがあるため、団員として活動ができる人が少ないと感じる。一般企業の方が消防団に入りやすいように、訓練の時間を短くするなどの取組も進めていただきたい。
小野消防長	現状として、40代から60代の団員が多く、20代、30代が少ないため、若い方の入団に向けて広報をしている。また、女性消防団員確保に向けて区長会でお願いをしている。 企業には仕事中でも消防団の活動ができるよう、協力の働きかけを行っている。 訓練に関しては実践練習を中心に2時間くらいで終われるよう取り組んでいる。
委員	それぞれの地区で消防団員がどれだけ足りていないか情報があれば、区長会としても団員確保に協力できる。
小野消防長	先日、地域コミュニティの役員さんと消防団の在り方について話をした。区長会にデータを提供するので協力をお願いします。
委員	河川愛護デーの参加者数が少なく、取組が遅れているとの評価になっているが、佐伯の自然を後世に残していくことなどはとても大事なことで、学校と協力して参加を呼びかけたり、観光的な要素をいれたりして取り組んではどうか。
武田建設部長	7月の第1日曜日を河川愛護デーとして取り組んでいるが、高齢化や近年の暑さなどの影響で参加者が減少している。日曜日の作業となるので学校に協力をお願いするのは少し難しいかもしれないが、地区の子ども会などに参加していただくよう、協力や啓発を行っていく。
委員	都市公園の数や面積は足りているということで評価はAとなっているが、旧町村部には歩いていけるような公園は足りていない。南海トラフ沖地震が起きた場合の仮設住宅の建設地としても活用できると思うので、防災面からも旧町村部の公園整備も検討していただきたい。

	また、佐伯市として魅力的で目玉になるような公園の整備を検討していただきたい。
武田建設部長	新規の公園というのは難しい話だが、災害時の仮設住宅用の公園ということについては、市全体で検討させていただきたい。
久々宮教育部長	総合運動公園の遊具について、更新時期もきているので、佐伯市の企業版ふるさと納税でプロジェクト化して、佐伯市の子どもたちに誇れるような公園を作っていきたい。

政策2 暮らしと産業を支える生活基盤の創生

	意見なし
--	------

政策3 健康で安心して暮らせる共生社会の創生

	意見なし
--	------

政策4 人が学び、人が生き、人が育つ教育の創生

	意見なし
--	------

政策5 地域資源をいかした産業と観光の創生

委員	新しい公設市場の施設整備が始まるということで、漁業者にとっては明るいニュースとなっているが、そこで働く若い人材の育成も漁協と協力して行っていただきたい。また、衛生面でも九州の中でも良い施設となると聞いている。佐伯の魚は、「安心・安全・美味しい」ということで積極的にPRしていただきたい。
佐保農林水産部長	漁協とも話をしており、若い人材が少ないという現状は認識している。作業効率の向上や労働環境の改善などにも漁協と連携して取り組んでいきたい。
委員	政策5は全体評価で「A」となっている。また、個別の数値目標でも「A」となっているものもあり、計画数値に対しては順調と評価は出来るものの、急激な円安などが進む中、地域として稼ぐ力がついたのか、ということに実感がわからない。社会情勢の変化が激しい中、達成している数値目標の見直しなども必要なのではと感じている。
奥村観光ブランド推進部長	目標数値は達成しているが、大事なことは委員が言うように地域産業がいかにかに活性化していくかということだと考えている。品数だけでなく、数量も増やすことで地域活性化につながるよう取り組んでいく。
委員	人口減少が著しい中、DXについて行政として研究や、DX化を進めていこうとする民間企業のサポートなどを行っていただきたい。
奥村観光ブランド	企業立地助成金で、生産性の向上や合理化、DX化などの補助金を準備している。これらを活用してもらえよう、取り組んでいく。

推進部長	
------	--

政策6 人が交流し、活力あふれるまちの創生	
委員	コミュニティセンターの利用ルールの変更により、地域の自治会員が利用しづらいと言っている。利用ルールの変更を行う場合は、地域住民や自治医会役員の声を聞いていただきたい。
吉岡地域振興部長	地域住民が利用しやすいコミュニティセンターとなるよう、コミュニティ協議会運営委員の定期的な会議などをつうじてセンターの在り方を検討していきたい。

政策7 地域が輝くまちの創生	
委員	佐伯市は「魚」のまちとして売り出しているが、工芸作家など、「ものづくり」をしている方々もたくさんいる。生きがい対策、福祉対策、教育文化の継承、観光面にもつながるので、「ものづくりのまち」としても取り組んでいただきたい。

(2) 第3期佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和6年度の実施に係る検証結果について

次のとおり

基本目標1 仕事を育て、仕事を創る	
委員	新規に就業した人がそのまま定着できるよう、行政としても取り組んでいただきたい。
佐保農林水産部長	林業に就業した20人は、ほぼ定着していると把握している。また、農業の20人についても公的な支援を行いながら、しっかり定着していると把握している。
委員	数値目標が納税者1人あたりの課税所得となっているが、物価変動などは考慮していない「名目所得」となっている。「実質所得」への目標変更を検討してはどうか。
事務局	設定している数値目標について、インフレや企業の給与構造などの内容を分析し、状況に応じて見直しも検討する必要があると考えている。
委員	デジタル地域通貨は、導入することで地域経済圏の拡大につながっていく必要があるため、人口が減少していく中、客単価が上がっているか、などの研究もしっかり行い、導入するかを検討していただきたい。
奥村観光ブランド推進部長	委員が御指摘のとおり、デジタル地域通貨を導入した場合、うまく循環できるところまでいっていないとコストばかりかかることとなり、全国的にはやめていっている地域もある。そういうところを研究して、導入するかどうかは検討していきたい。

基本目標 2 佐伯市への人の流れを促す	
	意見なし

基本目標 3 結婚、出産・子育ての希望をかなえる	
	意見なし

基本目標 4 街・浦・里が支え合い、高める	
委員	コミュニティバスの利用率が低いので、職員が1年に1度は利用するか、市民が利用しやすいキャンペーンなどを行ってはみてはどうか。
吉岡地域 振興部長	今年8月の市報で、コミュニティバス特集を4ページわたって掲載し、乗り方などの紹介をした。 また、現在佐伯市の各地域を回って、地域住民と意見交換会を実施している。地域の皆様の声を聞き、今後の地域公共交通の改善につなげていきたい。 また、来年度のコミュニティバス無料デーの実施に向けて検討をしている。

答申について	
「総括的には妥当」とし、今回の意見を事務局が整理し、会長に内容を確認して答申とすることで全委員了承。	